

科目名	家庭生活(被服)									
科目名(英)										
単位数	1	時間数	20	担当者	鈴木 綾					
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	服飾デザイン及び製造28年、障害者向け衣料品のデザイン及び製造10年					
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科2年									
授業概要	誰もが身に着けている被服は、身体を保護し生命を維持するために欠かせないものです。また、人の尊厳を守り自分らしく生きる意欲にもつながる大切なものです。特に高齢者や障害者は被服のサポートを受ける面で、個人の気持ちが置き去りにされてしまう場面が多く見受けられています。ご利用者の心と身体の状態に合わせたサポートが理解できるように、被服の取り扱い方を身に着けながら学んでいきます。									
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:	○	実技:		※ 主たる方法:○	その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○					被服の役割を説明でき、様々な種類の被服の取り扱い方を説明できる。				
		○				個々の身体の状態に合わせた被服の問題点を理解し説明することができる。				
			○			ボタン付けや服のほつれを限られた時間内で手早くできる。				
				○		利用者の尊厳を守りかつ安全な被服の選択をすることができる。				
			○		ご利用者の求めていることを理解し相手に立場に立った支援ができる。					
テキスト・教材 参考図書	中央法規出版 介護福祉士養成講座6 生活支援技術 I									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示				
	1	装いについて考える				普段の自分自身の装いについて考える。				
	2	福祉の衣料品				市場にどのようなものがあるのか見ておく。				
	3	服の素材、取り扱い方について				教科書の該当ページを読んでおく。				
	4	洗濯、しみ抜き、漂白について				"				
	5	縫製実習 基礎縫い				裁縫道具(糸切りはさみ、縫い針、縫い糸、待ち針)を準備する。				
	6	縫製実習 基礎縫い				"				
	7	縫製実習 基礎縫い				作品提出				
	8	障害当事者による話とワークショップ				レポート提出				
	9	衣類や寝具の衛生管理について				教科書の該当ページを読んでおく。				
	10	まとめ、小テスト				授業全体を振り返り、内容を理解しておく。				
	11									
	12									
	13									
	14									
15										
評価方法	定期試験は、授業のすべてを網羅した筆記試験。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	◎	◎		○		90%			
	実習作品			◎	○		10%			
	小テスト									
	レポート									
	発表									
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。 実習作品の期限内未提出は減点対象となる。									

科目名	家庭生活(調理)						
科目名(英)	Family life (cookery)						
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	大仁田 あずさ		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	大学にて専任教員として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 2年						
授業概要	我が国では高齢化の進展及び疾病構造の変化が進む中、厚生労働省は「健康日本21(第2次)」において、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会を実現するために、健康寿命の延伸・健康格差の縮小、生活の質の向上などの目標を設定している。そこで、本科目では、介護を必要とする人々が自分らしく健康的な生活を営むうえで重要な食支援の基本となる知識と技術の習得を目指す。						
授業形式	講義:	○	演習:	実習:	△	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					食文化や食生活の変化、疾患と食事、食生活に関する施策について説明できる。	
	○					五大栄養素の種類とはたらき、食事摂取基準の意義とその活用について説明できる。	
	○					食品の保存、食品衛生、食中毒の種類と原因、食中毒予防について具体的に述べるができる。	
	○					高齢者・障害のある人の身体機能と栄養、食品選択と調理方法について説明できる。	
			○			利用者に正しい食支援を行うために、自分自身が健康で豊かな食生活を実現することができる。	
テキスト・教材 参考図書	介護福祉士養成講座編集委員会編集 『最新 介護福祉養成講座6 生活支援技術Ⅰ』 中央法規出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	食生活の基本知識(食文化と食生活の変化、疾患と食事、食生活に関する施策等)				【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業ノートの記載内容をもとに講義内容を再度確認する(0.5時間)	
	2	栄養の理解(五大栄養素の種類とはたらき、食事摂取基準の意義とその活用)				【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業プリントの記載内容をもとに講義内容を再度確認する(0.5時間)	
	3	献立作成、食品選択・購入(献立の立て方、食事バランスガイド、食品表示、食品添加物)				【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業プリントの記載内容をもとに講義内容を再度確認する(0.5時間)	
	4	食品の保存、食品衛生(食品衛生の意義、食中毒の種類と主な原因、食中毒予防)				【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業プリントの記載内容をもとに講義内容を再度確認する(0.5時間)	
	5	調理の基本、調理操作(調理の準備、食材の下処理、調理操作、食品の調理性)				【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業プリントの記載内容をもとに講義内容を再度確認する(0.5時間)	
	6	高齢者・障害のある人の栄養と食生活(身体機能と栄養、食品選択と調理方法)				【予習】教科書の該当範囲を事前に読む(0.5時間) 【復習】授業プリントの記載内容をもとに講義内容を再度確認する(0.5時間)	
	7	調理技術Ⅰ(実習) 一汁三菜の日本料理(高齢者にも適応) 【実習内容】翡翠の香り飯、さばの幽庵焼き、沢煮椀、みぞれ和え、フルーツヨーグルト				【復習】授業プリントの記載内容をもとに講義内容を再度確認する(0.5時間)	
	8	調理技術Ⅰ(実習) 一汁三菜の日本料理(高齢者にも適応) 【実習内容】翡翠の香り飯、さばの幽庵焼き、沢煮椀、みぞれ和え、フルーツヨーグルト				【復習】授業プリントの記載内容をもとに講義内容を再度確認する(0.5時間)	
	9	調理技術Ⅱ(実習) 中国料理(高齢者にも適応) 【実習内容】五目炒飯、酢豚、とうもろこしのスープ、杏仁豆腐				【復習】授業プリントの記載内容をもとに講義内容を再度確認する(0.5時間)	
10	調理技術Ⅱ(実習) 中国料理(高齢者にも適応) 【実習内容】五目炒飯、酢豚、とうもろこしのスープ、杏仁豆腐				【復習】授業プリントの記載内容をもとに講義内容を再度確認する(0.5時間)		
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト						
	宿題・レポート	○	◎		◎		10%
発表・作品				◎		10%	
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	生活支援技術・基本Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	田上／豆田／平山		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	CW(老健)／CW(病院)／CW(老健)		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科2年						
授業概要	基本Ⅰをふまえて、生活支援にICFの視点にもとづいた利用者の生活支援ができるようになることをめざす。そのために必要な介護技術・援助方法の習得をめざす。						
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				生活支援における意義と目的を理解し、その際に必要なアセスメント方法を身につける。	
		○	○			介護技術の理論と方法を習得する。	
テキスト・教材 参考図書	最新 介護福祉士養成講座 6. 生活支援技術Ⅰ 中央法規 最新 介護福祉士養成講座 7. 生活支援技術Ⅱ 中央法規 見て覚える！ 介護福祉士国試ナビ2019 中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	想定される事故と予防の視点を理解する				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	2	応急手当				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	3	応急手当の実際				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	4	応急手当の実際				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	5	応急手当の実際(演習)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	6	応急手当の実際(演習)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	7	休息・睡眠(豆田)/睡眠の意義と効果				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(2時間)	
	8	休息・睡眠(豆田)/演習「睡眠姿勢体験」				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	9	休息・睡眠(豆田)/具体的支援の展開				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(0時間)	
	10	人生の最終段階におけるケアの意味(平山)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	11	人生の最終段階におけるアセスメントの視点(平山)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	12	死をむかえる人の介護(平山)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	13	死をむかえた人の介護(平山)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	14	死後のケア演習(平山)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	15	亡くなった後の介護・グリーフケア(平山)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
評価方法	(1)宿題、レポートを数回実施する。(2)定期試験の(筆記)を実施する。(3)グループワーク実施時の参加状況以上を下記の割合で評価する 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				90%
	小テスト						
	宿題・レポート	○	◎				5%
	発表・作品				◎		5%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	生活支援技術・応用Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	田上／案納／吉水／豆田		
実施年度	2020年度	実施時期	通年	担当者実務経験	CW(老健)／NS(病院)／CW(特養)／CW(病院)		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 2年						
授業概要	各疾患の医学的理解・心理的理解を基とし、障害の状態に応じた介護支援の展開を行えるようになる。 また、利用者ニーズに対応した具体的な支援方法についても学ぶ。						
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				各疾患・障害の概要と特徴的な症状について説明できる。	
	○	○				各疾患・障害の特有の生活の困難について説明できる。	
	○	○	○			各疾患・障害に応じた生活支援技術の展開方法を選択し、生活支援技術基本の内容を応用できる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規出版 最新介護福祉士養成講座-8 生活支援技術Ⅲ						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1～3	肢体不自由に応じた介護(豆田)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	4～7	内部障害(心臓機能障害のある人)に応じた介護(案納)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	8～11	内部障害(呼吸器機能障害ある人)に応じた介護(案納)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	12～14	知的障がいに応じた介護(田上)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	15～17	重症心身障害に応じた介護(田上)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	18～20	筋萎縮疾患(ALSと筋ジストロフィー)に応じた介護(豆田)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	21～22	パーキンソン病に応じた介護(豆田)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	23～24	悪性関節リウマチに応じた介護(豆田)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	25～27	災害時における生活支援(吉水)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	28～30	家庭経営、家計の管理(吉水)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	31～34	内部障害(腎臓機能障害のある人)に応じた介護(案納)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	35～36	内部障害(肝臓機能障害ある人)に応じた介護(案納)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	37	内部障害(HIV・免疫機能障害・肺がん・肺炎)に応じた介護(案納)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
38～40	発達障害に応じた介護(吉水)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
41～45	精神障害に応じた介護(吉水)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
評価方法	(1) 定期試験(筆記)を実施する。授業内で行った演習についても定期試験にて問題として出題する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○	○			100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護過程各論Ⅱ(後期/通年)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	吉水 美穂		
実施年度	2020年度	実施時期	後期/通年	担当者実務経験	特別養護老人ホームにて介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 2年						
授業概要	授業の中で介護過程の展開方法を理解したうえで、実習事例体験を通して、個々に合った介護過程の展開ができるようになる。さらに、実習後個別のケースに対して事例研究を行い、事例検討の方法を習得する。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	目標		
	○				介護過程の展開のうちアセスメントの方法について根拠を理解し事例に応用することができる		
		○			実習担当利用者に対してアセスメントを実践し、適切に記録することができる。		
	○				介護過程の展開のうちアセスメントから計画の立案までの一連の方法習得し実習に応用できる		
				○	担当利用者の介護計画について実習後根拠に基づき分析を行い、論文にまとめプレゼンを行う。		
テキスト・教材 参考図書	中央法規介護福祉士養成講座9 介護過程 みらい アクティブラーニングで学ぶ介護過程ワークブック						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	16	事例研究の方法・評価基準					
	17	卒業研究テーマの決定・先行研究、参考文献の選定			福祉専門書の選定情報収集		
	18	卒業研究テーマの決定・先行研究、参考文献の選定					
	19	事例研資料作成方法の説明・抄録作成					
	20	事例研資料作成方法の説明・抄録作成					
	21	第1稿提出					
	22	抄録(第1稿)修正指導・抄録修正・プレゼン資料作成					
	23	抄録(第2稿)修正指導・抄録修正・プレゼン資料作成					
	24	第2稿提出					
	25	抄録(第2稿)修正指導・抄録修正・プレゼン資料作成					
	26	抄録(第3稿)修正指導・抄録修正・プレゼン資料作成					
	27	プレゼン資料完成					
	28	発表原稿作成・プレゼン確認					
29	発表会						
30	抄録・パワーポイント(文集用)作成						
評価方法	前期は定期試験(筆記)を実施・後期は介護過程事例研究論文提出により評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 通年評価は、前期・後期の評価を総合的に評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(前期)	◎	◎				100%
	発表・作品(後期)	○			○		100%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護総合演習Ⅱ(後期/通年)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	案納賀世子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期/通年	担当者実務経験	訪問看護ステーション保健師勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科2年						
授業概要	①これまで学んだ知識や技術を統合して、実際場面に適用できる応用力・判断力を身につける。 ②実習後に十分な振り返りを行い、より効果的な実習を行えるようにする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					介護福祉士としての理念、職業倫理、総合的な対応能力が身についている。	
	○					介護過程の展開が実習の場面でできる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規「介護総合演習・介護実習」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	16	実習施設発表、定期券申請					
	17	調べ学習、自己紹介表記入					
	18	実習内容、目標設定					
	19	実習の決まりごと確認					
	20	事前挨拶・実習前審査					
	21	事前挨拶・実習前審査					
	22	プロセスレコード記入方法					
	23	カンファレンス記入方法					
	24	帰校日(実習2週目)					
	25	帰校日(実習3週目)					
	26	帰校日(実習4週目)プロセスレコード発表会					
	27	実習日誌清書、お礼状、学内申し送り簿の記入					
	28	実習日誌清書、お礼状、学内申し送り簿の記入					
	29	報告会準備					
30	介護実習Ⅲ報告会						
評価方法	定期試験がないため授業、帰校日の出席、授業中の態度、意欲、努力、提出物(カンファレンスレポート、プロセスレコード、実習を終えて等)を評価対象とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	出席				○		50%
	提出物				○		50%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	医療的ケア(後期/通年)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	68時間	担当者	林田 朋子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期/通年	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーク科2年						
授業概要	介護福祉士は介護の中核を担う存在となり、複雑化・多様化・高度化していく介護ニーズに対応していく必要がある。 さらに業務として喀痰吸引と経管栄養が加わり、この授業では、医療職と連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得することを目的とする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					喀痰吸引や経管栄養の医行為の一部を業として行うことになった背景などを学び説明できる	
	○					医療的ケアを安全に実施するための基礎知識を学び医療職との連携の重要性を説明できる	
	○	○				喀痰吸引に関する基礎知識、実施手順とその留意点について学び実技に応用できる	
	○	○				経管栄養に関する基礎知識、実施手順とその留意点について学び実技に応用できる	
	○	○	○	○		医療的ケアの実技ができる	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座15 医療的ケア ・中央法規出版 見て覚える！介護福祉士国試ナビ						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	18	第3章 経管栄養 第1節経管栄養概論 消化器系のしくみと働き			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	19	消化・吸収とよくある消化器の症状 経管栄養とは・経管栄養が必要な状態			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	20	経管栄養のしくみと種類			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	21	注入する内容に関する知識 経管栄養実施上の留意点①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	22	経管栄養実施上の留意点② 子どもの経管栄養について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	23	経管栄養に関する感染と予防 利用者・家族の気持ちと対応、説明と同意			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	24	経管栄養のより生じる危険、注入後の安全確認 急変・事故発生時の対応と事前対策			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	25	第2節経管栄養実施手順 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ 清潔の保持			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	26	経管栄養の技術と留意点			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	27	経管栄養に必要なケア			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	28	経管栄養演習 経鼻経管栄養 1回目			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	29	経管栄養演習 経鼻経管栄養 2回目			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	30	経管栄養演習 胃ろう経管栄養			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	31	喀痰吸引演習 口腔・鼻腔喀痰吸引			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	32	喀痰吸引演習 気管内喀痰吸引			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
33	後期授業ふり返り			質問事項をまとめておくこと			
34	後期授業ふり返り 定期試験対策						
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)グループ発表を実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。(4)実技試験を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				75%
	宿題・レポート	○	○		◎		5%
	グループワーク・演習	○	○		◎		10%
実技試験	◎	◎				10%	
履修上の注意	出席が23回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	障害の理解(後期/通年)						
科目名(英)	Understanding of Disorders						
単位数	4	時間数	60	担当者	田中優子		
実施年度	2020	実施時期	後期/通年	担当者実務経験	病院で看護師として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科2年						
授業概要	障害の概念や障害者福祉の歴史を踏まえ、障害者支援の基礎となる関係法規や障害者福祉の理念を理解する。障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)の特性について理解し生活上の支援の在り方を学ぶ。障害者やその家族に対する関わり・支援の基礎を理解する。地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。						
授業形式	講義	○	演習:	△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					障害者福祉に関する制度や専門用語、公的支援や疾患の概要を説明できる	
		○				障害者福祉制度と介護保険制度の共通点と相違点について説明できる	
		○				障害別の基礎的理解と特性に応じた支援について説明できる	
		○				障害者への社会資源や家族へのサポートのありかたについて説明できる	
			○			障害者の個別の事例について考え支援の在り方について意見を述べる事が出来る	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座14 - 障害の理解 ・中央法規出版 見て覚える! 介護福祉士国試ナビ2017						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	知的障害の特性を理解し支援の在り方を学ぶ				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	2	知的障害の特性を理解し支援の在り方を学ぶ ② DVD				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	3	精神障害の特性を理解し支援の在り方を学ぶ				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	4	高次脳機能障害の特性を理解し支援の在り方を学ぶ				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	5	発達障害の特性を理解し支援の在り方を学ぶ				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	6	難病の定義を理解しその特性に合った支援の在り方を学ぶ				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	7	難病の定義を理解しその特性に合った支援の在り方を学ぶ DVD				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	8	まとめと確認テスト				配布プリントとミニテストを復習すること(1時間)	
	9	障害を持った人との関わり ①				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	10	障害を持った人との関わり ②				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	11	地域のサポート体制と社会資源の考え方を学ぶ				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	12	チームアプローチの在り方、保健医療関係者の職種を理解する				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	13	家族への支援の在り方について学ぶ				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	14	家族への支援の在り方について学ぶ ② 事例検討				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
15	まとめと確認テスト				配布プリントとミニテストを復習すること(1時間)		
評価方法	(1)毎回ミニテストを行う。(2)定期テスト(筆記)を実施する。 評価はA(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(59点以下)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎		○		80%
	小テスト	◎	◎		○		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	経済学						
科目名(英)	Economics						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	内田寛樹		
実施年度	2020	実施時期	後期	担当者実務経験	社会福祉士として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科2年						
授業概要	21世紀に入り、20世紀に構築された福祉国家システムは改革を迫られている。この講義では、福祉国家の理念をまず学習し、そこから地方財政との関係、21世紀に求められる福祉国家のあり方を勉強し、福祉の問題が日本経済の卑近の問題であることを確認する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習: △	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○			福祉国家システムという考え方を身につけること。	
	○	○	○			21世紀に福祉の考え方も変化してきていることを認識すること。	
	○	○	○			日本経済の問題の一つとして福祉の分野を捉えること。	
テキスト・教材 参考図書	『福祉国家と地方財政 21世紀の福祉国家と地域④』渋谷博史・塚谷文武・長谷川千春 著 学文社						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	はじめに(福祉の考え方の源流)			経済学と福祉をテーマとした文献をできれば目を通して てくること		
	2	地方公共団体の役割			教科書の該当する部分を読んでおくこと		
	3	地方財政システム			教科書の該当する部分を読んでおくこと		
	4	地域間格差と財政調整			教科書の該当する部分を読んでおくこと		
	5	高齢社会と福祉国家の現場①高齢社会の深化			教科書の該当する部分を読んでおくこと		
	6	高齢社会と福祉国家の現場②社会保障システム			教科書の該当する部分を読んでおくこと		
	7	高齢社会と福祉国家の現場③障害者福祉			教科書の該当する部分を読んでおくこと		
	8	高齢社会と福祉国家の現場④介護保険と高齢者福祉			教科書の該当する部分を読んでおくこと		
	9	地方公共団体と児童福祉			教科書の該当する部分を読んでおくこと		
	10	国民皆保険システムと地方公共団体			教科書の該当する部分を読んでおくこと		
	11	市町村と医療福祉①セーフティネットとしての生活保護			教科書の該当する部分を読んでおくこと		
	12	市町村と医療福祉②地方公共団体の独自の医療福祉制度			教科書の該当する部分を読んでおくこと		
	13	市町村と医療福祉③無保障者問題の顕在化			教科書の該当する部分を読んでおくこと		
	14	市町村と医療福祉④国民皆保険システムと地方公共団体			教科書の該当する部分を読んでおくこと		
	15	おわりに(21世紀に求められる福祉国家像)			これまで学習したことを念頭に教科書全体に目を通して てくること		
評価方法	成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記試験)		◎		○		80%
	小テスト(筆記試験)		◎		○		20%
履修上の注意	予習・復習は大切です。講義の前と後にできるだけ教科書やノートに目を通してください。 出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	社会福祉援助技術演習 I						
科目名(英)	Social Work Support Exercise I						
単位数	2	時間数	30	担当者	亀田 尚		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	障害者施設 支援員 7年間		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 2年						
授業概要	相談援助の知識と技術に関わる他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に関わる知識・技術、理論について学ぶ。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		様々な課題を抱えた対象利用者を捉え、具体的な場面に応じた援助実践能力を身につける。	
	○	○				組織の中で他職種と連携し、チームワークを形成しながら援助をを実践する能力を身につける。	
テキスト・教材 参考図書	『新版 ソーシャルワーク実践事例集』 明石書店						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ギャンブル依存症者への支援1 <グループディスカッション>					
	2	ギャンブル依存症者への支援2					
	3	事例「教育分野のソーシャルワーク」1 <グループディスカッション>					
	4	事例「教育分野のソーシャルワーク」2 <グループディスカッション>					
	5	引きこもりの青年への支援1 <グループディスカッション>					
	6	引きこもりの青年への支援2					
	7	触法障害者の問題1					
	8	触法障害者の問題2					
	9	「認知症高齢者を介護する家族が意図せず犯す家庭内暴力に対する支援」1					
	10	「認知症高齢者を介護する家族が意図せず犯す家庭内暴力に対する支援」2					
	11	障害者殺傷事件について1					
	12	障害者殺傷事件について2					
	13	生活が危機的状況にある家庭への介入とワーカーのジレンマ1					
	14	生活が危機的状況にある家庭への介入とワーカーのジレンマ2					
	15	卒研について					
評価方法	成績評価基準は、 A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート	◎	○		○	○	80%
	発表・作品	○			◎		20%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	社会福祉現場実習指導 I (後期)						
科目名(英)	Social Work Training Instruction I						
単位数	2	時間数	30	担当者	亀田 尚		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	障害者施設 支援員 7年間		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 2年生						
授業概要	相談援助実習の意義について理解し、相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助における知識と技術について理解する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					介護実習と相談援助実習との相違について理解する。	
		○				相談援助実習の内容をイメージできるようになる。	
				○		実習への意欲を高め、主体的に係れるようになる。	
				○		実習後に、実習を振り返り自分自身の課題を抽出する。	
テキスト・教材 参考図書	『ソーシャルワークを学ぶ人のための相談援助実習』 中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	SW実習とは何か?					
	2	行政実習の準備1 生活保護行政について 生活保護受給者がギャンブルをするのは許されないのか?					
	3	行政実習の準備2 生活保護行政について①					
	4	行政実習の準備3 生活保護行政について②					
	5	行政実習の準備4 行政とは何か?					
	6	施設実習の準備1					
	7	施設実習の準備2					
	8	施設実習の準備3					
	9	実習記録の書き方1					
	10	高齢者施設での実習1					
	11	高齢者施設での実習2					
	12	3年生の実習報告					
	13	実習記録の書き方2					
	14	事例 「障害者の就労支援」1					
15	事例 「障害者の就労支援」2						
評価方法	通常授業の発表・意欲・態度等を総合的に判断して評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品	○	○		◎	○	70%
	出席率				◎		30%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位を取得することができない。						

科目名		社会福祉援助技術論Ⅱ(後期/通年)①					
科目名(英)							
単位数	8単位	時間数	120時間	担当者	棧原 弘司		
実施年度	2020年度	実施時期	後期/通年	担当者実務経験	独立型社会福祉士		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科2年						
授業概要	地域を基盤としたソーシャルワークの担い手としての実践力の高い社会福祉士養成を目指して、以下の5項目のねらいにそって講義を進めていく -①相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について理解させる、②相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解させる、③相談援助の過程とそれに係る知識と技術(介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者総合支援法によるサービス利用計画を含む)について理解させる、④相談援助における事例分析の意義・方法について理解させる、⑤相談援助の実際(権利擁護活動を含む)について理解させる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他		
	◎				相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について説明できる。		
	○	◎		○	相談援助の対象と様々な実践モデルについて説明できる。		
	○	◎		○	相談援助の過程についての知識を説明できる。		
	○	◎		○	相談援助の過程における技術を使用することができる。		
	◎				相談援助における事例分析の意義・方法について説明することができる。		
	○	◎		○	相談援助活動の実際における留意点を説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	「ソーシャルワークの理論と方法」Ⅰ・Ⅱ(株)ミネルヴァ書房						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	31	人間と環境の理解 ー 行動と環境、環境システムの理解			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	32	人間と環境の理解 ー 相互作用と交互作用、組織・コミュニティの理解			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	33	ソーシャルワークの構造 ー 相談援助の対象、社会資源の理解			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	34	ソーシャルワークの機能 ー ソーシャルワーカーの機能・役割の概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	35	ソーシャルワークの機能 ー 具体的機能(調整的機能・開発的機能・代弁的機能・教育的機能他)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	36	ソーシャルワーク面接の意義・定義			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	37	ソーシャルワーク面接の構成要素			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	38	ソーシャルワーク面接のプロセス ー 開始～展開段階			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	39	ソーシャルワーク面接のプロセス ー 終結段階～評価			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	40	ソーシャルワーク面接におけるアプローチの適用 ー 治療モデルに拠るアプローチ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	41	ソーシャルワーク面接におけるアプローチの適用 ー 生活モデルに拠るアプローチ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	42	ソーシャルワーク面接におけるアプローチの適用 ー ストレングスモデルに拠るアプローチ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	43	ソーシャルワーク面接の方法 ー [演習] 個別面接の実際と具体的(障害児支援)事例の検討			教科書の該当範囲、配布資料を事前に読んでおくこと		
	44	ソーシャルワーク面接の方法 ー [演習] 家族面接の実際と具体的(障害児支援)事例の検討			教科書の該当範囲、配布資料を事前に読んでおくこと		
45	ソーシャルワークにおける援助関係 ー 援助関係形成と活用			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
評価方法	(1) 定期試験(前期・後期一筆記試験)を実施する。(2) 授業中に小テストを2回実施する。(3) 事例検討・発表を7回実施する。* 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	小テスト	◎	○				10%
	宿題提出・発表等	○	◎		○		20%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	社会福祉援助技術論Ⅱ(後期/通年)②						
科目名(英)							
単位数	8単位	時間数	120時間	担当者	棧原 弘司		
実施年度	2020年度	実施時期	後期/通年	担当者実務経験	独立型社会福祉士		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科2年						
授業概要	地域を基盤としたソーシャルワークの担い手としての実践力の高い社会福祉士養成を目指して、以下の5項目のねらいにそって講義を進めていく -①相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解させる、②相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解させる、③相談援助の過程とそれに係る知識と技術(介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者総合支援法によるサービス利用計画を含む)について理解させる、④相談援助における事例分析の意義・方法について理解させる、⑤相談援助の実際(権利擁護活動を含む)について理解させる。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	◎				目標		
	○	◎		○	相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について説明できる。		
	○	◎		○	相談援助の対象と様々な実践モデルについて説明できる。		
	○	◎		○	相談援助の過程についての知識を説明できる。		
	○	◎		○	相談援助の過程における技術を使用することができる。		
	◎				相談援助における事例分析の意義・方法について説明することができる。		
○	◎		○	相談援助活動の実際における留意点を説明できる。			
テキスト・教材 参考図書	「ソーシャルワークの理論と方法」Ⅰ・Ⅱ(株ミネルヴァ書房)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	46	スーパービジョン -歴史、意義・定義				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	47	スーパービジョン -機能・構造、形態・内容				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	48	スーパービジョン -[演習] スーパービジョンの実際と具体的(新人ケースワーカー指導)事例の検討				教科書の該当範囲、配布資料を事前に読んでおくこと	
	49	コンサルテーション -歴史、意義・定義				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	50	コンサルテーション -機能・構造、形態・内容				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	51	コンサルテーション -[演習] コンサルテーションの実際と具体的(施設処遇改善)事例の検討				教科書の該当範囲、配布資料を事前に読んでおくこと	
	52	ソーシャルワーク記録 -意義・定義、方法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	53	ソーシャルワーク記録 -個人情報保護の意義と留意点				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	54	ソーシャルワーク事例研究 -意義・目的、構成要素・枠組み				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	55	ソーシャルワーク事例研究 -「事例のまとめ」の様式・方法、論点・展望				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	56	ソーシャルワークとICT -活用と効果・弊害(課題・留意点)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	57	ソーシャルワークの動向と課題 -社会的要請とその応答(理論枠組みの強化、ジェネラリスト・ソーシャルワークの確立)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
58	ソーシャルワークの動向と課題 -社会的要請とその応答(ソーシャルワーカー養成の充実、権利擁護の推進他)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
59	ソーシャルワークの動向と課題 -社会的要請とその応答(ソーシャルワークの社会的承認、多職種連携の推進他)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
60	後期(第31回~第59回)講義内容のまとめ及び当該範囲の復習小テスト				教科書の該当範囲の復習をしておくこと		
評価方法	(1) 定期試験(前期・後期一筆記試験)を実施する。(2) 授業中に小テストを2回実施する。(3) 事例検討・発表を7回実施する。* 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	小テスト	◎	○				10%
	宿題提出・発表等	○	◎		○		20%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名		介護実習Ⅲ①					
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	160時間	担当者	案納賀世子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	訪問看護ステーションにて保健師勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 2年生						
授業概要	個別ケアを行うために個々のリズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれをふまえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○			コミュニケーション技術を活用した利用者との関りが実践できる	
			○	○		利用者を中止としたチームケアや多職種協働の方法について学ぶことができる	
	○	○				学校で学んだ生活支援技術が応用されている場面を見学し根拠を理解できる。	
			○			多角的に利用者の情報収集を行い、利用者理解を深めることができる	
			○			計画的に実習の課題に取り組むことができる。	
テキスト・教材 参考図書	実習要項・記録						
授業計画	日数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	利用者の名前を覚え、1日の流れを知る			日々の実習記録の記載		
	2	職員や利用者との関りを通して、利用者の特徴を理解する			日々の実習記録の記載		
	3	利用者自ら積極的にコミュニケーションを図ることができる			日々の実習記録の記載		
	4	利用者の思いを引き出すためにコミュニケーションを実践する			日々の実習記録の記載		
	5	介護過程の展開実践のための受け持ち利用者の決定			日々の実習記録の記載・フェイスシートの完成		
	6	利用者の思いを引き出すためにコミュニケーションを実践する 生活支援技術実践のための見学を行う			日々の実習記録の記載		
	7	コミュニケーションから情報収集を行う。 指導者の指示のもと根拠に基づく生活支援技術の実践			日々の実習記録の記載		
	8	他専門職から得られる情報を収集する			日々の実習記録の記載		
	9	フェイスシート、状況シートを記入し指導者からの確認を受ける			日々の実習記録の記載		
	10	中間カンファレンスを開催し、自身の振り返りを行う			日々の実習記録の記載・状況シートの完成・カンファレンスレポートの作成		
	11	介護過程の実践 1日の流れを理解し自ら進んで業務に参加する			日々の実習記録の記載		
	12	課題を元に、介護計画の立案 根拠を理解した生活支援技術の実践			日々の実習記録の記載・アセスメント表の完成		
	13	介護計画を指導者へ確認、指導を受ける 根拠を理解した生活支援技術の実践			日々の実習記録の記載		
	14	介護計画の実践準備 レクリエーションなどの企画運営 夜勤業務の実践			日々の実習記録の記載		
	15	介護計画の実践 自ら考えて様々な業務を見学する			日々の実習記録の記載・個別援助計画の完成		
評価方法	実習要項にある評価表について下記の尺度で評価。A自分で行動できる B一度指導されれば、行動することができる Cその都度指導されれば行動できる D再三にわたり指導されても行動できない。問題行動危険行為がある。 施設評価80% 担当教員評価20% 総合評価がDの場合は再実習						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	実習態度		○	○	○		50
	記録提出		○	○	○		50
履修上の注意	実習は100%の出席のみ評価の対象となる。						

科目名	介護実習Ⅲ②						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	160時間	担当者	案納賀世子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	訪問看護ステーションにて保健師勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 2年生						
授業概要	個別ケアを行うために個々のリズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれをふまえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
			○		目標		
			○	○	コミュニケーション技術を活用した利用者との関りが実践できる		
		○	○		利用者を中止としたチームケアや多職種協働の方法について学ぶことができる		
		○		○	学校で学んだ生活支援技術が応用されている場面を見学し根拠を理解できる。		
	○		○	多角的に利用者の情報収集を行い、利用者理解を深めることができる			
			○	計画的に実習の課題に取り組むことができる。			
テキスト・教材 参考図書	実習要項・記録						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	16	介護計画の実践 介護福祉職以外の職種について見学等を行い、多職種連携を学ぶ			日々の実習記録の記載・実施、評価の記録		
	17	介護計画の再アセスメントの必要性について考察 昨日の学びを通して、チームケアについて考察する			日々の実習記録の記載		
	18	これまでの学びを通して、施設の社会的役割を理解する 介護福祉士の倫理観や専門性について考察する			日々の実習記録の記載		
	19	介護計画実践のまとめ すべての生活支援技術について習熟度の確認			日々の実習記録の記載・プロセスレコードの完成		
	20	最終カンファレンスを開催し、自身の振り返りを行う			日々の実習記録の記載・最終カンファレンスレポートの提出		
	21						
	22						
	23						
	24						
	25						
	26						
	27						
	28						
29							
30							
評価方法	実習要項にある評価表について下記の尺度で評価。A自分で行動できる B一度指導されれば、行動することができる Cその都度指導されれば行動できる D再三にわたり指導されても行動できない。問題行動危険行為がある。 施設評価80% 担当教員評価20% 総合評価がDの場合は再実習						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	実習態度		○	○	○		50
記録提出		○	○	○		50	
履修上の注意	実習は100%の出席のみ評価の対象となる。						

科目名	在宅介護実習						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	12時間	担当者	案納賀世子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	訪問看護ステーションにて保健師勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 2年生						
授業概要	在宅で生活する方の、個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、生活の場における個別ケアの実践を学ぶ。他職種協働や関係機関との連携を通じてチームケアの重要性を学ぶ。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○			在宅介護実習の実践を見学することで介護福祉職の役割を知る。	
			○	○		家事援助・身体介護の実践を学ぶ	
		○	○			実習記録を適切な方法で毎日記載し確実に提出することができる。	
		○		○		社会人としての基本的マナーが実践できる	
テキスト・教材 参考図書	実習要項・記録						
授業計画	日数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	指導者と利用者の自宅に訪問し、介護の実践を見学する				日々の実習記録の記載	
	2	指導者と共に同行訪問し、家事援助等できそうなことを手伝う				日々の実習記録の記載	
	3						
	4						
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	実習要項にある評価表について下記の尺度で評価。A自分で行動できる B一度指導されれば、行動することができる Cその都度指導されれば行動できる D再三にわたり指導されても行動できない。問題行動危険行為がある。 施設評価80% 担当教員評価20% 総合評価がDの場合は再実習						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	実習態度		○	○	○		50
	記録提出		○	○	○		50
履修上の注意	実習は100%の出席のみ評価の対象となる。						

科目名	医療保険概論						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	16時間	担当者	藤 洋介		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	医療機関にてMSWとして勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーク科 2学年						
授業概要	保険医療機関で働く医療ソーシャルワーカーにとって、医療法及び医療制度、診療報酬の知識は必要不可欠な知識である。しかし、病院組織内では他職種との業務分担が図られており、退院援に多くの時間を要する現場も多い。そのような中では、医療制度や診療報酬制度について、業務を通じて知見を深める事が難しい現場も少なくはない。医療制度や診療報酬を読み解く事で、業務が効率的に進む場面や患者家族との円滑なコミュニケーションに役立ち、より良い意思決定につながる場面も多い為、この授業ではそれらの知識習得の必要性や活用の仕方について、講義、演習を通して学んでいく。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					・MSWに求められる医療保険制度及び医療を取り巻く環境を理解することができる	
		○				・MSWに必要な診療報酬や制度について理解を深め、どのように活用するか考える事ができる	
				○		・医療、福祉サービスが提供されている仕組みについて理解して概要を説明する事ができる	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	社会保障と医療制度、日本の社会保障の現状の基礎知識			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	医療費の仕組み			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと及び復習		
	3	診療報酬の仕組み 概要・機能・役割について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと及び復習		
	4	診療報酬の仕組み 病院理解、MSWに関わる診療報酬			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと及び復習		
	5	医療制度や診療報酬に関わる社会保障サービス 介護・障害分野			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと及び復習		
	6	医療制度や診療報酬に関わる社会保障サービス 生活保護、その他制度			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと及び復習		
	7	医療制度や社会保障サービスの活用			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと及び復習		
	8	まとめ			医療制度、社会保障について自身の考えをまとめる		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	期末に定期試験(筆記)を実施。授業内で必要に応じてグループワークの実施及びレポート(個人・グループ)作成を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	授業態度・意欲等				◎		20%
	宿題・レポート	○	◎		○		10%
	演習時の意欲・態度等		○		◎		10%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						